

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 4 月 24 日現在

機関番号：17701

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2023

課題番号：18K01068

研究課題名(和文) 貝塚時代土器文化の起源と動植物遺体からみた食性・環境の基礎的研究

研究課題名(英文) Basic Studies on the Origins of Pottery Culture and Subsistence Studies

研究代表者

高宮 広土 (Takamiya, Hiroto)

鹿児島大学・総合科学域共同学系・教授

研究者番号：40258752

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：発掘調査の対象となった半川遺跡は奄美大島龍郷町に所在する。2004年に龍郷町教育委員会、2005年に奄美考古学研究会によって発掘調査がなされた。前者によって貝塚時代前3期および前4期とされ、後者によって前2期と考察された。後者による調査では多量のシイ属が検出され、年代測定を実施したところ11200年前という結果を得た。後者によってこの層からは小破片の土器も検出されたが保存状態が悪く特徴を知ることはできなかった。半川遺跡遺跡を発掘調査することにより、11200年前という奄美・沖縄県における最古の土器が検出することが可能と考え、またその頃の食性が復元できると思われ、発掘調査を実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

発掘調査の結果兼久式土器(2層)、面縄前庭式土器(3a層)、爪形文・押引文(3d層)等が検出された。爪形文土器は奄美・沖縄諸島において最古の土器とされ、その年代は7000年前と考えられていた。その層からは前年度同様に多量のシイ属が検出された。それらを年代測定すると11200年前という前回と同様の結果を得た。この時点においてFM・沖縄諸島における最古の土器が検出された。また、この時期からシイ属が重要な食料源であったことが明らかになった。また、龍郷町教育委員会による発掘調査では竪穴住居跡が検出され、約1万年前とされた。今回の調査により、この遺構が奄美・沖縄諸島最古の住居跡であることが示唆された。

研究成果の概要(英文)：The Hango site is located in Tatsugo Town, Amami Oshima. It was excavated by the Tatsugo Town Board of education in 2004 and by the Amami Archaeological Research Association in 2005. When the latter excavated, a large amount of Castanopsis remains were recovered. The date of Castanopsis was about 11200 years ago. This layer unearthed pottery fragments. That means they were the earliest pottery in this region. Unfortunately, these pottery fragments were so small, it was difficult to investigate pottery culture.

Therefore we excavated the site in order to understand the earliest pottery culture and subsistence at this time. We successfully obtained finger-nailed pottery and push-pull designed pottery associated with a large amount of Castanopsis. The date of Castanopsis were again 11200 years ago. The project successfully recovered the earliest pottery in the Amami and Okinawa archipelagos and demonstrated that Castanopsis was important food item at that time.

研究分野：人類学

キーワード：半川遺跡 爪形文土器 押引文土器 シイ属遺体 縦穴住居跡 開地遺跡

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

半川遺跡は奄美大島龍郷町に所在する遺跡で、2004年に龍郷町教育委員会（第1次調査）、2005年に奄美考古学研究会（第2次調査）によって発掘調査がなされた。前者では貝塚時代3期から4期とされ、堅穴住居跡2基・集石3基、条痕文土器、縄文中・後期土器、磨石、敲石、楔形石器、有溝砥石、石鏃、成川式土器、貝類遺体が報告されている（龍郷町教育委員会 2005）。後者では前2期と理解された条痕文土器、縄文後期土器、黒曜石製石鏃および多量の植物遺体が検出された（高宮 2019、中山 2009）。条痕文土器の層からは植物遺体が多量に検出されたが、その殆どはシイ属であった。そのシイ属を2017年に年代測定をしたところ、11200年前という結果を得た。つまり奄美・沖縄諸島において最古の可能性のある土器と多量のシイ属が検出されたのである。残念なことに龍郷町教育委員会および奄美考古学研究会によって得られた土器は小破片でその特徴を検証することは難しかった。奄美・沖縄諸島最古の土器はどのような特徴を有した土器であったのであろうか。また、その時期の食性は全く解明されておらず、当時の人々はどのような食性であったのであろうか。これらの背景があり、本プロジェクトを立ち上げた（第3次調査）。

2. 研究の目的

本プロジェクトの目的は5つあった。まず、奄美考古学研究会によって土器とともに検出されたシイ属の年代測定をした結果、約11200年前という結果を得たが、この年代を確認することである。二番目にこの年代が正しければ、上述したように奄美・沖縄諸島（および先島諸島を含め）において最古の土器となる。それはどのような土器であったのかを検証することである。三番目は第1次調査において貝塚時代前3期から4期、第2次調査では前2期とされたが、年代測定では約11200年前という年代となった。いずれの時期にしても奄美・沖縄諸島におけるこれらの時期の植物食利用はほとんど理解されていない。今回の調査によって遺跡の年代を確定し、その時期の植物食利用を解明することである。4つめは前3～4期の動物食利用（貝類および脊椎動物）はある程度解明されているが、前2期はほとんど理解されていない。さらに約11200年前であるとすると動物食利用に関するデータは全く存在しない。今回の調査により、該当する時期の動物食利用に関するさらなるデータを蓄積することである。最後に古環境の復元も目的の一つとして、火山灰が確認できるかも目的とした。

3. 研究の方法

龍郷町教育委員会によると第1次調査および第2次調査の発掘調査を元にとると第2次調査の調査トレンチ（2m×2m）の周辺が最も残りの良いところであろうとのことであった。しかしながら、第2次調査の発掘調査報告書は未刊行であった。幸い第2次調査の発掘調査メンバーが発掘調査トレンチの前で撮影した記念写真があり、それをもとに第2次調査のトレンチを確認することから調査を開始した。そのトレンチを確認後に隣接した地点に2m×2mのトレンチを設置し今回の発掘調査区とした（本プロジェクト；第3次調査）（図1）。研究の方法はまずこのトレンチを掘り下げ人工遺物や遺構を確認・回収する。動物遺体の回収方法として、ピックアップ法とフルイによる回収を試みた。後者に関しては、発掘区より得られた土壌をサンプリングし、1mmのフルイにかけ、貝類および脊椎動物遺体を回収する。植物遺体の回収方法は発掘区からコラムを設置し、コラムから各層の土壌をサンプリングし、フローテーション処理によって植物遺体の回収を試みた。さらに植物遺体に関しては、半川遺跡では発掘中に植物遺体を確認されたので、ピックアップもおこなった。最後に、古環境の復元のために各層より一握り程度の土壌をサンプルした。

4. 研究成果

発掘調査の結果、以下の基本土層、人工・自然遺物および遺構が確認された。

- 1 層：ややシルトの多い砂層
- 2 層：黒色砂層；兼久式、貝類遺体（チョウセンサザエなど少量）
- 3a 層：黒褐色砂質土層；面縄前庭式、チャート製ドリル・スクレーパーなど
- 3b 層：黒褐色砂利混じり土層；チャート剥片類
- 3c 層：暗褐色土層；無文土器、沈線文土器、丸底、磨石
- 3d 層：暗褐色土層；爪形文、押引文、植物遺体

ピット2基

4a層：黄褐色土層：無遺物層、上面でピット1基

4b層：明褐色礫層：基盤層・無遺物層

本プロジェクトの目的の一つである奄美・沖縄諸島最古の土器の検出であるが、3d層で爪形文土器および押形文土器が検出された(図2)。爪形文土器は当時奄美・沖縄諸島において最古の土器であった。その年代は6500年前から7000年前とされていた。また、3d層からは第2次調査で多量に回収されたシイ属も同様に多量に得られた(図3)。今回回収されたシイ属の年代測定を実施したところ、11200年前～11400年前という結果であった。すなわち、第2次調査のシイ属の年代と整合性のある年代が得られたわけである。この事実は爪形文土器(および押引文土器)の年代を遡らせることになるのであろうか。あるいは前1期の爪形文土器とは異なる新しいタイプの爪形文土器と解釈できるのであろうか。残念ながら、3d層より検出された爪形文土器および押引文土器は小破片で風化の影響もあり、その特徴を詳細に抽出することは困難であった。

次に特筆すべき点は11200年前ほどの植物遺体であろう。第2次調査からは計373(粒/片)の植物遺体が回収された。そのうち同定できなかった植物遺体が175(片)であった。同定できた198(粒/片)の植物遺体のうち不明2(粒/片)とカラスザンショウ1(粒)以外は全てシイ属子葉、堅果類子葉および堅果皮であった(高宮 2019)。つまり、シイ属を含む堅果類はこのころから重要な植物食であることが示唆された。第3次調査では通常の発掘調査ではまず目にする事のない植物遺体が発掘中から確認でき、それらをピックアップした。また土壌もフローテーションのためにサンプリングし、フローテーションにより植物遺体の回収を行った。その結果、777(粒/片)の植物遺体が回収された。そのうち274(片)が同定のできない植物遺体であった。ここでも不明1(片)以外はシイ属子葉、堅果類子葉および堅果皮であったと考えられる。すなわち、半川遺跡においては約11200年前からシイ属を含む堅果類が重要な食料源であった。堅果類(特にシイ属)は貝塚時代の多くの遺跡から出土しており、貝塚時代の主食料源であったことが明らかになりつつあるが、今回の調査により、シイ属を中心とする堅果類は1万年以上前から食料として重要な位置を占めていたことが判明した。

今回の調査ではもう一つ重大な成果があった。上述したように第1次調査において、堅穴住居跡が2基検出されていた。その炭化物の年代は 2σ calBC9150-8740(95.4%)および 2σ calBC2300-2130(90.7%)であった。また、堅穴住居跡の検出されたVI層炭化物は 2σ calBC10050-9300(95.4%)であった。報告書(龍郷町教育委員会 2005)では、海洋リザーバー効果の可能性を考察し、 2σ calBC2300-2130(90.7%)の年代を支持している。しかしながら、第2次調査および今回の調査は半川遺跡では11200年前ごろから人々が活動していたことが明らかになった。それゆえ、第1次調査で検出された堅穴住居跡は古い方の年代の可能性を非常に高くしていると思われる。仮にこれらの堅穴住居跡が古い方の年代であったとすると、奄美・沖縄諸島(および先島を含め)最古の開地遺跡となる。この地域の旧石器時代の遺跡は洞穴遺跡である。また第3次発掘調査後に徳之島天城町に所在する下原洞穴遺跡から13000～14000年前の隆帯文土器が報告され、今日奄美・沖縄諸島における最古の土器として知られるが、この遺跡も洞穴遺跡である。11200年前ごろ人々は洞穴を出て、開地で生活を営み始めたのであろうか。

以上のような成果があったが、残念なことに脊椎動物遺体および貝類遺体はほとんど検出されなかった。また、火山灰の分析も実施したが、火山灰を検出することはできなかった。

参考文献

高宮広土 2019「半川遺跡(第2次調査)出土の植物遺体」『中山清美と奄美学 中山清美氏追悼論集』奄美考古学会(編) pp.485-492. 奄美考古学会:鹿児島市

龍郷町教育委員会 2005『半川遺跡』龍郷町教育委員会:龍郷町

中山清美 2009『掘り出された奄美諸島』奄美文庫8 奄美文化財団:奄美市

図1：半川遺跡第1次～3次調査区



図2：3d層出土の爪形文土器および押形文土器



図 3：半川遺跡出土の植物遺体

(サイズは堅果皮以外長さx幅x厚さmm)



写真1 シイ属子葉
外側 内側
(7.1x6.2x3.0)



写真2 シイ属子葉
外側 内側
(8.1x4.0x1.5)



写真3 シイ属子葉
外側 内側
(8.0x6.5x2.9)



写真4 シイ属子葉
外側 内側
(8.9x6.2x3.3)



写真5 シイ属子葉
外側 内側
(9.3x6.3x3.0)



写真6 シイ属子葉
外側 内側
(8.5x7.6x3.7)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計83件（うち査読付論文 12件 / うち国際共著 6件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 高宮広土	4. 巻 総論
2. 論文標題 奄美・沖縄諸島の先史人類学	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 海洋	6. 最初と最後の頁 150-158
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高宮広土	4. 巻 54
2. 論文標題 奄美・沖縄諸島の先史人類学	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 海洋	6. 最初と最後の頁 315-323
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高宮広土	4. 巻 765
2. 論文標題 奄美・沖縄諸島植物利用	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 考古学ジャーナル	6. 最初と最後の頁 9-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takamiya, Hiroto and Shinzato, Takayuki	4. 巻 17
2. 論文標題 Evolution of social complexity during the Shellmidden Period, the Central Ryukyus (Amami and Okinawa Archipelagos), Japan: Not simply simple, but not necessarily complex	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The Journal of Island and Coastal Archaeology	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/15564894.2022.2043493	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takamiya, Hiroto and Shinzato, Takayuki	4. 巻 17
2. 論文標題 Evolution of social complexity during the Shellmidden Period, the Central Ryukyus (Amami and Okinawa Archipelagos), Japan: Not simply simple, but not necessarily complex	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The Journal of Island and Coastal Archaeology	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15564894.2022.2043493	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新里貴之・小河原孝彦・宮島宏	4. 巻 13(1)
2. 論文標題 南島先史時代のヒスイ製玉類と非ヒスイ製玉類	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 社会文化研究	6. 最初と最後の頁 41-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部芳郎・田村正樹・樋泉岳二・黒住耐二	4. 巻 175
2. 論文標題 松島湾周辺地域における土器製塩の展開～林崎貝塚・清水洞窟貝塚・表浜貝塚における縄文晩期から古代の土器製塩～	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 駿台史学	6. 最初と最後の頁 33-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋泉岳二	4. 巻 39
2. 論文標題 新刊紹介 黒住耐二(文)・大作晃一(写真)『くらべてわかる貝殻』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 動物考古学	6. 最初と最後の頁 92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋泉岳二	4. 巻 161
2. 論文標題 漁労証拠からみた縄文海洋進出史（琉球列島）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 季刊考古学	6. 最初と最後の頁 62-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋泉岳二	4. 巻 40
2. 論文標題 貝塚論 - 縄文貝塚の終焉 -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 季刊考古学別冊	6. 最初と最後の頁 115-118
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部芳郎・田村正樹・樋泉岳二・黒住耐二	4. 巻 175
2. 論文標題 松島湾周辺地域における土器製塩の展開～林崎貝塚・清水洞窟貝塚・表浜貝塚における縄文晩期から古代の土器製塩～	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 駿台史学	6. 最初と最後の頁 33-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒住耐二	4. 巻 36
2. 論文標題 漆喰の原料となる貝灰 - その歴史	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 千葉いまむかし	6. 最初と最後の頁 33-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒住耐二・鐘ヶ江賢二・竹中正巳	4. 巻 20
2. 論文標題 屋鈍遺跡(2018年調査)で得られた貝類遺体	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 鹿児島国際大学ミュージアム調査研究報告	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒住耐二	4. 巻 諫早直人・溝口泰久(編)
2. 論文標題 湯舟坂2号墳出土貝類装馬具の素材	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域資源としての湯舟坂2号墳 湯舟坂2号墳出土品の研究の最前線	6. 最初と最後の頁 6-9
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒住耐二	4. 巻 能城修一(編)
2. 論文標題 縄文時代早期の貝類資源利用	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 縄文時代早期の関東地方における環境変遷と植物資源利用	6. 最初と最後の頁 11-16
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒住耐二・孫 国平・王 永磊・宋 妹	4. 巻 中村慎一(編)
2. 論文標題 田螺山遺跡および鍾家港遺跡から得られた貝類の印象	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中国新石器時代文明の探求	6. 最初と最後の頁 中国新石器時代文明の探求
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 乾 哲也・黒住耐二・高橋 理・佐藤一夫	4. 巻 乾 哲也・奈良智法 (編)
2. 論文標題 厚真町上厚真遺跡出土の貝類	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 上厚真遺跡	6. 最初と最後の頁 54-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fernandes, Ricardo, Mark Hudson, Hiroto Takamiya, Jean-Pascal Bassino, Junzo Uchiyama and Martine Robeets	4. 巻 9, e3.
2. 論文標題 The Archipelago Archaeological Isotope Database for the Japanese Islands	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Open Archaeology Data	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5334/joad.73	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Martine Robbeets, Remco Bouckaert, Matthew Conte, Alexander Savelyev, Tao Li, Deog-Im An, Ken-ichi Shinoda, Yinqiu Cui, Takamune Kawashima, Geonyoung Kim, Hiroto Takamiya, 542名 (うち17番目)	4. 巻 599
2. 論文標題 Triangulation supports agricultural spread of the Transeurasian languages	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Nature	6. 最初と最後の頁 616-621
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41586-021-04108-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Aleksandra Jarosz, Mark Hudson, Martine Robbeets, Ricardo Fernandes, Akito Shinzato, Naoko Nakamura, Maria Shinoto, Hiroto Takamiya	4. 巻 42
2. 論文標題 Demography, trade and state power: a tripartite model of medieval farming/language dispersals in the Ryukyu Islands	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Evolutionary Human Sciences	6. 最初と最後の頁 49-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/ehs.2022.1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Takamiya, Hiroto	4. 巻 0.62
2. 論文標題 Prehistoric period of the Amami and Okinawa Islands (1)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Science of Amami: From an Island of "Nothing" to "Something", Occasional Papers No.62	6. 最初と最後の頁 3-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takamiya, Hiroto	4. 巻 62
2. 論文標題 Prehistoric period of the Amami and Okinawa Islands (2). In Science of Amami	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Science of Amami: From an Island of "Nothing" to "Something", Occasional Papers No.62	6. 最初と最後の頁 5-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takamiya, Hiroto, Suzuki Eiji and Yamamoto Sota (eds.)	4. 巻 62
2. 論文標題 Science of Amami: From an Island of "Nothing" to "Something",	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Occasional Papers	6. 最初と最後の頁 1-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 庄田慎矢・新里貴之・鈴木美穂・高宮広土・タルボット=ヘレン・クレイグ=オリヴァー	4. 巻 83
2. 論文標題 土器残存脂質による貝塚文化北限地域における動植物資源利用の復元	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文化財科学	6. 最初と最後の頁 55-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takamiya, Hiroto	4. 巻 42
2. 論文標題 Nissology, Island Archaeology, and the Archaeology of Ryukyus (1)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 South Pacific Studies	6. 最初と最後の頁 49-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 高宮広土	4. 巻 765
2. 論文標題 奄美・沖縄諸島植物利用	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 考古学ジャーナル	6. 最初と最後の頁 9-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新里貴之	4. 巻 10
2. 論文標題 鹿児島国際大学地域総合研究所蔵の琉球古瓦	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 廣友会誌	6. 最初と最後の頁 139-142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 庄田慎矢・新里貴之・鈴木美穂・高宮広土・タルボット=ヘレン・クレイグ=オリヴァー	4. 巻 83
2. 論文標題 土器残存脂質による貝塚文化北限地域における動植物資源利用の復元	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文化財科学	6. 最初と最後の頁 55-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shinzato, Takayuki	4. 巻 62
2. 論文標題 Agricultural rituals held in inner caves of Okinoerabujima	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Occasional papers	6. 最初と最後の頁 11-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松原信之・樋泉岳二・米田 穰	4. 巻 9
2. 論文標題 崩り遺跡の畝状遺構	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 奄美考古	6. 最初と最後の頁 11-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新里貴之	4. 巻 9
2. 論文標題 トカラ列島・中之島宮水流遺跡第1～3次発掘調査概要	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 奄美考古	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋泉岳二	4. 巻 37
2. 論文標題 轟貝塚第12～13次調査で採集された脊椎動物遺体	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 轟貝塚	6. 最初と最後の頁 306-332
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒住耐二	4. 巻 536
2. 論文標題 ならべる凶鑑. 第40回. タカラガイ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 読売KODOMO新聞第	6. 最初と最後の頁 7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒住耐二	4. 巻 令和3年度沖縄県立博物館・美術館 博物館企画展.
2. 論文標題 微小貝類からみた沖縄の貝塚	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 海とジュゴンと貝塚人 貝塚が語る9000年の暮らし	6. 最初と最後の頁 67-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takamiya, Hiroto and Naoko Nakamura	4. 巻 41
2. 論文標題 The Beginning of Agriculture in the Ryukyu Archipelago	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 South Pacific Studies	6. 最初と最後の頁 1-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 高宮広土	4. 巻 -
2. 論文標題 大セノ遺跡出土の植物遺体	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大セノ嶺発掘調査報告書	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高宮広土	4. 巻 -
2. 論文標題 上ト八遺跡出土の植物遺体	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 上ト八遺跡発掘調査報告書	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高宮広土	4. 巻 -
2. 論文標題 上桃迫遺跡出土の植物遺体	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 上桃迫遺跡発掘調査報告書	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高宮広土	4. 巻 -
2. 論文標題 宮之浦遺跡出土の植物遺体 (2019年度)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 宮之浦遺跡発掘調査報告書V	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高宮広土	4. 巻 -
2. 論文標題 宇木汲田貝塚出土の植物遺体	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 宇木汲田貝塚	6. 最初と最後の頁 98-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新里貴之	4. 巻 151
2. 論文標題 大山盛保と港川フィッシャー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 季刊考古学	6. 最初と最後の頁 92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新里貴之	4. 巻 71
2. 論文標題 鹿児島県	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本考古学年報	6. 最初と最後の頁 209-212
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒住耐二	4. 巻 -
2. 論文標題 取掛西貝塚(5)で得られた貝類遺体	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 取掛西貝塚(5)	6. 最初と最後の頁 247-273
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋泉岳二	4. 巻 -
2. 論文標題 下原洞穴遺跡から採集された脊椎動物遺体	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 原洞穴遺跡・コウモリイヨ-遺跡発掘調査報告書	6. 最初と最後の頁 127-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋泉岳二	4. 巻 -
2. 論文標題 取掛西貝塚(5)で検出された魚類遺体	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 取掛西貝塚(5)	6. 最初と最後の頁 242-246
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋泉岳二	4. 巻 -
2. 論文標題 脊椎動物遺体	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 取掛西貝塚総括報告書 - 東京湾東岸部最古の貝塚 -	6. 最初と最後の頁 503-506
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋泉岳二	4. 巻 -
2. 論文標題 取掛西貝塚の動物資源利用の特徴と価値	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 取掛西貝塚総括報告書 - 東京湾東岸部最古の貝塚 -	6. 最初と最後の頁 507-516
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋泉岳二	4. 巻 -
2. 論文標題 川尻遺跡の平成24~25年度調査で採集された魚類遺体	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 川尻遺跡	6. 最初と最後の頁 200-216
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高宮広土	4. 巻 -
2. 論文標題 貝塚時代前期を中心とした植物遺体研究の新視点	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 貝塚研究の新視点	6. 最初と最後の頁 29-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高宮広土	4. 巻 -
2. 論文標題 島の先史学へのいざない 琉球列島奄美・沖縄諸島を中心として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 島々の考古学	6. 最初と最後の頁 491-496
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高宮広土	4. 巻 -
2. 論文標題 奄美・沖縄諸島の島々に旧石器時代にヒト (Homo sapiens) がいた意義について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 奄美群島の歴史・文化・社会的多様性	6. 最初と最後の頁 12-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高宮広土	4. 巻 482
2. 論文標題 奄美・沖縄諸島 先史時代の特異性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月刊 地球	6. 最初と最後の頁 659-668
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高宮広土	4. 巻 -
2. 論文標題 先史人類学から見た奄美ネシア	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本ネシア論	6. 最初と最後の頁 162-164
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高宮広土	4. 巻 -
2. 論文標題 宮之浦遺跡出土の植物遺体	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宮之浦遺跡発掘調査報告書	6. 最初と最後の頁 81-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高宮広土	4. 巻 -
2. 論文標題 半川遺跡 (第2次調査) 出土の植物遺体	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中山清美と奄美学 中山清美氏追悼論集	6. 最初と最後の頁 485-492
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takamiya, Hiroto	4. 巻 -
2. 論文標題 Population history of the Tokara Islands	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Tokara Islands	6. 最初と最後の頁 29-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高宮広土	4. 巻 -
2. 論文標題 奄美諸島貝塚時代・グスク時代における植物食利用	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 平成 28 年度~令和元年度文部科学省特別経費(プロジェクト) 薩南諸島の生物多様性とその保全に関する 教育研究拠点整備活動報告書	6. 最初と最後の頁 72-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高宮広土	4. 巻 -
2. 論文標題 大セノ嶺遺跡出土の植物遺体	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大セノ嶺発掘調査報告書	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋泉岳二	4. 巻 -
2. 論文標題 奄美群島における兼久式期~中世の脊椎動物資源利用	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中山清美と奄美学 - 中山清美氏追悼論集 -	6. 最初と最後の頁 477-484
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋泉岳二	4. 巻 -
2. 論文標題 貝塚形成と狩猟活動	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 縄文文化の反映と衰退	6. 最初と最後の頁 13-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋泉岳二	4. 巻 -
2. 論文標題 下原洞穴遺跡から採集された脊椎動物遺体	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 下原洞穴遺跡発掘調査報告書	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新里貴之	4. 巻 -
2. 論文標題 土器からみた琉球列島の地域間関係	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 研究会「琉球列島への人と文化の移動」発表資料集	6. 最初と最後の頁 14-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新里貴之	4. 巻 -
2. 論文標題 トカラ列島中之島・宮水流遺跡の発掘調査から:トカラ列島の弥生時代・平安時代を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 第66回トカラ塾ライブトーク	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新里貴之・伊藤慎二	4. 巻 -
2. 論文標題 トカラ列島・臥蛇島の先史時代遺物	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中山清美と奄美学:中山清美氏追悼論集	6. 最初と最後の頁 466-477
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shinzato, Takayuki	4. 巻 -
2. 論文標題 Discarded Ceramics which had been Stored in Ji-nushi Shrine, Nakano-shima Island, in the Tokoara Archipelago.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Tokara Islands	6. 最初と最後の頁 20-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高宮広土・新里貴之・黒住耐二・樋泉岳二	4. 巻 -
2. 論文標題 奄美大島龍郷町半川遺跡第3次調査(試掘調査)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 令和元年度鹿児島県考古学会総会研究発表会要旨	6. 最初と最後の頁 21-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒住耐二	4. 巻 -
2. 論文標題 黒潮とオオツタノハ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 「海峡をつなぐ資源と道具」予稿集	6. 最初と最後の頁 27-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒住耐二	4. 巻 93
2. 論文標題 貝塚と日本人	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 エプタ	6. 最初と最後の頁 17-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒住耐二	4. 巻 -
2. 論文標題 微小貝類を中心とした貝塚研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 貝塚研究の新視点:沖縄考古学会2019年度研究発表会資料集	6. 最初と最後の頁 40-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroto Takamiya, Chiaki Katagiri, Shinji Yamasaki & Masaki Fujita	4. 巻 13
2. 論文標題 Human Colonization of the Central Ryukyus (Amami and Okinawa Archipelagos), Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Journal of Island and Coastal Archaeology	6. 最初と最後の頁 0-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15564894.2018.1501443	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 高宮広土	4. 巻 -
2. 論文標題 奄美・沖縄諸島における農耕のはじまり	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 沖縄考古学会(編)『南島考古学入門』ポーターインク社	6. 最初と最後の頁 138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新里貴之・黒住耐二・樋泉岳二	4. 巻 -
2. 論文標題 トカラ列島宝島大池遺跡	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 平成30年度鹿児島県考古学会総会研究発表会要旨	6. 最初と最後の頁 31-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新里貴之	4. 巻 -
2. 論文標題 先史琉球列島の葬制	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 平成30年度第2回(通算第9回)葬制からみた琉球史研究会資料集	6. 最初と最後の頁 5-8
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新里貴之	4. 巻 -
2. 論文標題 琉球列島先史時代の重層石棺墓	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東南アジア考古学会2018年度大会	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新里貴之	4. 巻 -
2. 論文標題 墓と葬制	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 沖縄考古学会(編)『南島考古学入門』ポーターインク社	6. 最初と最後の頁 96-100
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新里貴之	4. 巻 -
2. 論文標題 南島出土ヒスイ製品の特質	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 山崎真治(編)『縄文と沖縄:火焔型土器のシンボルリズムとヒスイの道』沖縄県立博物館・美術館	6. 最初と最後の頁 88-95
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋泉岳二	4. 巻 -
2. 論文標題 崩り遺跡の平成23～24年度調査で採集された脊椎動物遺体	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 崩り遺跡 第2分冊』（松原信之編）	6. 最初と最後の頁 87-121
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋泉岳二	4. 巻 -
2. 論文標題 遺跡出土脊椎動物遺体からみた奄美・沖縄の動物資源利用	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 奄美・沖縄諸島先史学の最前線（高宮広土編）	6. 最初と最後の頁 109-128
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋泉岳二	4. 巻 -
2. 論文標題 前当り遺跡から採集された脊椎動物遺体	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 前当り遺跡・カンナテ遺跡（新里亮人・常 未来編）	6. 最初と最後の頁 59-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋泉岳二	4. 巻 -
2. 論文標題 カンナテ遺跡から採集された脊椎動物遺体	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 前当り遺跡・カンナテ遺跡（新里亮人・常 未来編）	6. 最初と最後の頁 115-116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋泉岳二	4. 巻 -
2. 論文標題 フェンサ城貝塚から水洗選別によって採集された脊椎動物遺体	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 沖縄フェンサ城貝塚の研究 2009～2011年度発掘調査（高宮広土・新里貴之・黒住耐二・樋泉岳二編）	6. 最初と最後の頁 99-116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋泉岳二	4. 巻 144
2. 論文標題 沖縄の獣肉食	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季刊考古学	6. 最初と最後の頁 63-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋泉岳二	4. 巻 -
2. 論文標題 奄美群島における兼久式期～中世の脊椎動物資源利用	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中山清美氏追悼論文集（奄美考古学研究会編）	6. 最初と最後の頁 210-217
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計65件（うち招待講演 30件 / うち国際学会 11件）

1. 発表者名 高宮広土
2. 発表標題 何万年も前から島に適應した人々
3. 学会等名 下原遺跡シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Takamiya Hiroto, Toizumi Takeji, Kurozumi Taiji
2. 発表標題 No Obvious Human Related Environmental Change During the Prehistory of Amami and Okinawa Archipelagos, Japan
3. 学会等名 Indo-Pacific Prehistory Association (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高宮広土
2. 発表標題 沖永良部人の起源 (現代奄美・沖縄人の起源)
3. 学会等名 日本島嶼学会 沖永良島大会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高宮広土
2. 発表標題 現代琉球人の起源 (奄美・沖縄諸島を中心に)
3. 学会等名 第42回日本ケルト学会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hudson, Mark and Hiroto Takamiya
2. 発表標題 The aDNA revolution and the archaeology of the southern Ryukyu Islands
3. 学会等名 World Archaeology Congress 9 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高宮広土・中村直子
2. 発表標題 柳田国男「海上の道」仮説の検証：植物遺体をもとに
3. 学会等名 沖縄文化協会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高宮広土
2. 発表標題 奇跡の鳥々？奄美・沖縄諸島の先史時代
3. 学会等名 第27回南西諸島研究会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高宮広土
2. 発表標題 種子島小浜貝塚の発掘調査について
3. 学会等名 SceNEセミナー（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 樋泉岳二
2. 発表標題 貝塚から探る昔の自然と人々の暮らし
3. 学会等名 日本動物考古学会第9回大会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Toizumi Takeji, Manabu Uetsuki, and Hiro'omi Tsumura
2. 発表標題 Subsistence and paleoenvironment at Ra's Jibsh, Oman
3. 学会等名 ICAZ (International Council for Archaeozoology) -ASWA (Archaeozoology of Southwest Asia and Adjacent Areas) 15th International meeting (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 樋泉岳二
2. 発表標題 日本列島の貝塚から見た世界文化遺産の貝塚
3. 学会等名 北海道立埋蔵文化財センター連続講座「キーワードで読み解く北海道北東北の縄文遺跡群1」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐藤善輝・小野映介・樋泉岳二・小岩直人・工藤 司・上田龍摩
2. 発表標題 青森県小川原湖湾口部における完新世地形環境変遷
3. 学会等名 日本地理学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 黒住耐二
2. 発表標題 土器圧痕で見られる貝類について(予察)
3. 学会等名 日本動物考古学会第9回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山崎京美・黒住耐二・江田真毅・谷口康浩
2. 発表標題 群馬県居家以岩陰遺跡における縄文時代早期押型文期・条痕文期の動物遺存体および骨角貝製品（2017・2018年資料をもとに）
3. 学会等名 日本動物考古学会第9回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 黒住耐二
2. 発表標題 湯舟坂2号墳出土貝装馬具の素材
3. 学会等名 第2回湯舟坂2号墳プロジェクト成果報告会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 黒住耐二
2. 発表標題 縄文時代早期の貝類資源利用
3. 学会等名 縄文時代早期の関東地方における環境変遷と植物資源利用 明治大学黒耀石研究センターシンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 黒住耐二
2. 発表標題 出土した貝類が教える人々の暮らし
3. 学会等名 第107回房総の地域文化講座（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 黒住耐二
2. 発表標題 貝類から見た取掛西貝塚
3. 学会等名 取掛西貝塚を考える～約1万年前の縄文ワールド 第5弾～（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高宮広土
2. 発表標題 奄美・沖縄諸島における狩猟採集から農耕へ
3. 学会等名 「ボカシの文化にメスを入れる」研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高宮広土
2. 発表標題 奄美・沖縄諸島における農耕のはじまり
3. 学会等名 鹿児島大学国際島嶼教育研究センターシンポジウム「先史時代種子島の謎」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Takamiya, H.
2. 発表標題 Occupation of the Amami and Okinawa Archipelagos by Hunter-Gatherers during the Shellmidden period (ca. 7000 BP to 1000BP)
3. 学会等名 Interdisciplinary Research of Coexist of People and Nature in Subtropical and Tropical Asian Islands. Island Seminar Series First Seminar（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高宮広土
2. 発表標題 奇跡の島々(?): 先史時代の奄美・沖縄諸島
3. 学会等名 2021 Lecture Series 2nd Lecture 島嶼地域科学の分野横断型研究展開による国際的共同研究拠点形成(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高宮広土
2. 発表標題 奄美群島先史学の魅力
3. 学会等名 奄美市生涯学習講座(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高宮広土
2. 発表標題 先史時代の奄美・沖縄諸島
3. 学会等名 新学術領域研究(研究領域提案型)2019~2023年度『出ユーラシア統合の人類史学・文明創出メカニズムの解明』(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 黒住耐二
2. 発表標題 沖縄の貝塚と貝類
3. 学会等名 沖縄県立博物館・美術館 博物館企画展「海とジュゴンと貝塚人」第531回 博物館文化講座(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高宮広土
2. 発表標題 奄美・沖縄諸島における『島嶼環境』とヒト (Homo sapiens)
3. 学会等名 日本サンゴ礁学会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 黒住耐二
2. 発表標題 住み続ける貝、入ってくる貝、そして未来は？
3. 学会等名 栃木 県立博物館第127回企画展「貝ってすてき！」記念講演会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hiroto Takamiya, Takeji Toizumi and Taiji Kurozumi
2. 発表標題 Coastal Resource Use during the Prehistoric Times in the Amami and Okinawa Archipelagos, Japan,
3. 学会等名 Society for American Archaeology, 84th Annual Meeting, (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kaishi Yamagiwa and Hiroto Takamiya
2. 発表標題 Transition from Hunting-Gathering to Agriculture in Amami and Okinawa Archipelagos, Japan
3. 学会等名 Society for American Archaeology, 84th Annual Meeting, (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高宮広土
2. 発表標題 奇跡の島々 先史時代の奄美群島
3. 学会等名 国際島嶼教育研究センター奄美分室見学会・移転記念式・講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高宮広土・新里貴之・黒住耐二・樋泉岳二
2. 発表標題 奄美大島龍郷町半川遺跡第3次調査（試掘調査）
3. 学会等名 令和元年度鹿児島県考古学会総会・研究発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高宮広土
2. 発表標題 植物遺体からみた『海上の道』仮説の検証
3. 学会等名 沖縄文化協会2019年度 第4回東京公開研究発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高宮広土
2. 発表標題 奇跡の島々（？）先史時代の奄美・沖縄諸島
3. 学会等名 鹿児島大学島めぐり講演会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高宮広土
2. 発表標題 海上の道仮説再考
3. 学会等名 2019年度 日本島嶼学会都大会、 宮古市未来創造センター
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高宮広土
2. 発表標題 The Pleistocene Human (Homo sapiens) colonization to the Islands of the Ryukyu archipelagos, Japan.
3. 学会等名 第7回東アジア島嶼海洋文化フォーラム(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高宮広土
2. 発表標題 奄美・沖縄諸島における農耕のはじまり
3. 学会等名 第11回奄美考古学会・第13回九州古代種子研究会合同研究会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高宮広土
2. 発表標題 奄美・沖縄諸島先史時代の特異性
3. 学会等名 国際火山噴火情報研究集会2019-2(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高宮広土
2. 発表標題 この4年間で判明した奄美・沖縄諸島先史時代について
3. 学会等名 奄美群島の生物多様性シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 樋泉岳二
2. 発表標題 日本列島・琉球列島の貝塚
3. 学会等名 東南アジア考古学会2019年度大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 樋泉岳二
2. 発表標題 漁撈活動と交易
3. 学会等名 明治大学黒耀石研究センター『シンポジウム 海峡をつなぐ資源と道具』
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takamiya, H., T. Toizumi and T. Kurozumi
2. 発表標題 Coastal resource use during the Prehistoric times in Amami and Okinawa Archipelagos, Japan.
3. 学会等名 84th Society of American Archaeologist Annual Meeting（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高宮広土・新里貴之・黒住耐二・樋泉岳二
2. 発表標題 奄美大島龍郷町半川遺跡第3次調査(試掘調査)
3. 学会等名 令和元年度鹿児島県考古学会総会・研究発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 新里貴之
2. 発表標題 トカラ列島中之島・宮水流遺跡の発掘調査から:トカラ列島の弥生時代・平安時代を中心に
3. 学会等名 第66回トカラ塾ライブトーク
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高宮広土・新里貴之・黒住耐二・樋泉岳二
2. 発表標題 奄美大島龍郷町半川遺跡第3次調査(試掘調査)
3. 学会等名 令和元年度鹿児島県考古学会総会・研究発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 新里貴之
2. 発表標題 土器からみた琉球列島の地域間関係
3. 学会等名 研究会『琉球列島への人と文化の移動』
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 黒住耐二・山崎真治
2. 発表標題 1.5万年前の沖縄島の海域環境-サキタリ洞遺跡の発掘成果から
3. 学会等名 沖縄生物学会第56回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 黒住耐二
2. 発表標題 微小貝類を中心とした貝塚研究
3. 学会等名 沖縄考古学会2019年度総会・研究発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 黒住耐二
2. 発表標題 貝から探る日本の原風景 貝類学者の視点から
3. 学会等名 愛媛大学アジア古代産業考古学研究センター第27回アジア歴史講座（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 黒住耐二
2. 発表標題 黒潮とオオツタノハ
3. 学会等名 シンポジウム「海峡をつなぐ資源と道具」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高宮広土・新里貴之・黒住耐二・樋泉岳二
2. 発表標題 奄美大島龍郷町半川遺跡第3次調査(試掘調査)
3. 学会等名 令和元年度鹿児島県考古学会総会・研究発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takamiya, H., T. Toizumi and T. Kurozumi
2. 発表標題 Coastal resource use during the Prehistoric times in Amami and Okinawa Archipelagos, Japan.
3. 学会等名 84th Society of American Archaeologist Annual Meeting (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高宮広土
2. 発表標題 植物遺体よりみた「海上の道」仮説
3. 学会等名 第84回日本考古学協会総会・大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高宮広土
2. 発表標題 奄美・沖縄諸島先史時代の独自性 2
3. 学会等名 日本島嶼学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高宮広土
2. 発表標題 狩猟・採集・漁撈民のいた島、奄美・沖縄諸島
3. 学会等名 沖縄文化協会2018年度 第3回東京公開研究発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高宮広土・宮本一夫
2. 発表標題 宇木汲田遺跡における植物食利用
3. 学会等名 第72回日本人類学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高宮広土
2. 発表標題 奄美・沖縄諸島における先史時代の食性
3. 学会等名 東南アジア考古学会2018年度大会・総会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高宮広土
2. 発表標題 トカラ列島先史時代における植物利用の解明
3. 学会等名 トカラ列島および甌島列島総合調査報告回（鹿児島大学国際島嶼教育研究センター）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高宮広土
2. 発表標題 狩猟・採集・漁撈民の暮らした島（先史時代の奄美・沖縄諸島）
3. 学会等名 沖縄国際大学南島研・鹿児島大学島嶼研合同講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takamiya, Hiroto
2. 発表標題 The islands of Amami and Okinawa, where hunter-gatherers once thrived
3. 学会等名 The Future of the Earth: insights from island civilizations（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 新里貴之
2. 発表標題 『テラのピーピーどんぶり』とは何だったのか
3. 学会等名 第54回トカラ塾ライブトーク 武蔵野市御殿山コミュニティセンター
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 新里貴之・黒住耐二・樋泉岳二
2. 発表標題 トカラ列島宝島大池遺跡
3. 学会等名 平成30年度鹿児島県考古学会研究発表会,（鹿児島県歴史資料センター黎明館）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 新里貴之
2. 発表標題 ヒスイの道から貝の道へ
3. 学会等名 縄文と沖縄：火焰型土器のシンボリズムとヒスイの道シンポジウム、沖縄県立博物館・美術館
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 新里貴之
2. 発表標題 先史琉球列島の葬墓制
3. 学会等名 平成30年度第2回（通算第9回）葬墓制からみた琉球史研究会、沖縄国際大学
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 新里貴之
2. 発表標題 琉球列島先史時代の重層石棺墓について
3. 学会等名 東南アジア考古学会2018年度大会，2018年12月16日：沖縄国際大学
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 新里貴之
2. 発表標題 トカラ列島 中之島地主神社2017年改修時廃棄資料
3. 学会等名 トカラ列島および甌島列島総合調査報告会、鹿児島大学
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 岩槻邦男・太田英利(編著) / 黒住耐二(分担執筆)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 (株)丸善	5. 総ページ数 332
3. 書名 日本の絶滅危惧生物図鑑	

1. 著者名 高宮広土	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ポーターインク	5. 総ページ数 336
3. 書名 奇跡の島々の先史学 琉球列島の島嶼文明	

1. 著者名 黒住耐二・武井哲史	4. 発行年 2021年
2. 出版社 誠文堂新光社	5. 総ページ数 272
3. 書名 日本と世界のタカラガイ	

1. 著者名 黒住耐二・大作晃一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 山と溪谷社	5. 総ページ数 128
3. 書名 くらべてわかる貝殻	

1. 著者名 山本宗立・高宮広土（編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 北斗書房	5. 総ページ数 60
3. 書名 魅惑の島々、奄美群島 歴史・文化編-	

1. 著者名 山本宗立・高宮広土（編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 北斗書房	5. 総ページ数 68
3. 書名 魅惑の島々、奄美群島 農業・水産業編-	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	樋泉 岳二 (Toizumi Takeji) (20237035)	明治大学・研究・知財戦略機構（駿河台）・研究推進員 (32682)	
研究分担者	新里 貴之 (Shinzato Takayuki) (40325759)	鹿児島大学・総合科学域共同学系・助教 (17701)	
研究分担者	黒住 耐二 (Kurozumi Taiji) (80250140)	千葉県立中央博物館・その他部局等・研究員（移行） (82503)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------